

黒毛和種産肉能力（間接法）検定成績

（種山牧野事務所・畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

県内黒毛和種の産肉能力等経済性の向上を図るため、黒毛和種牛群育種改良推進事業の中で産肉能力（間接法）検定を実施している。今回6頭の種雄牛について同検定が終了し、その成績を得たので改良指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

平成2年度黒毛和種間接検定成績

検定牛		糸菊 (N=8)	山盛金 (N= 8)	寿峰 (N= 8)	第3増清 (N= 8)	哲徳 (N= 7)	谷照 (N= 8)
所有者		岩手県	岩手県	岩手県	岩手県	江刺市農協	東磐井郡酪農協
生年月日 登録番号		62. 5.23 黒原1995	62. 5.10 黒原1996	62. 8.18 黒 11819	62. 4. 9 黒原1997	61. 5.15 黒原1836	61. 4. 5 黒原1768
血統	父	菊谷 育 197	安美金 育高 690	寿高 育 204	寿高 育 204	恒徳 育 96	安谷土井 育 85
	母の父	糸光 育 90	盛気高 育高 764	秀峰 育高 511	森気高 育 203	第11松田 育 14	菊照土井 育 100
体重 (kg)	開始時	258.8	259.3	277.8	306.0	270.0	282.8
	終了時	557.5	605.8	597.6	632.9	541.5	587.8
1日当り増体量 (kg)		0.82	0.95	0.88	0.90	0.75	0.84
1KG増体TDN (kg)		6.71	6.25	6.96	6.97	7.28	6.91
枝肉歩留 (%)		62.5	63.3	62.5	62.8	62.7	61.9
ロース芯断面積 (cm ²)		44.8	44.9	42.8	44.1	45.1	49.8
背部皮下脂肪厚 (cm)		1.8	1.8	2.3	2.3	1.3	1.5
脂肪交雑・(BMS)		2.2	2.4	2.0	1.7	1.9	2.8
枝肉格付		A5-4 A4-4	A5-4 A4-3 A3-1	A5-3 A4-3 A3-1 B4-1	A5-1 A4-3 A3-3 B4-1	A5-1 A4-6	A5-6 A4-2

検定成績の全国および本県平均値の比較

	セット数	終了時日齢(日)	終了時体重(kg)	1日増体量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	皮下脂肪厚(mm)	BMS
全国	253	624.4	583.4	0.88	45	2.0	2.1
本県	6	630.9	587.2	0.86	45	1.8	2.2

本年度検定終了した種雄牛は増体系、資質系およびそのハーフがそれぞれ2、1、3頭であり、6頭の検定平均値は全国平均値とほぼ同程度であった。

なお、県産県有種有牛4頭については、今回の間接検定成績および現在実施中の現場後代検定成績の結果を検討し最終的に1～2頭選抜する予定である。

糸菊； 終了時体重（557.5kg）および1日当り増体量（0.82kg）はやや低く、増体能力に難がある。屠体形質のうちロース芯面積（44.8cm²）も小さい傾向にあるが、皮下脂肪厚（1.8cm）およびBMS（2.2）は全国平均値を上回っている。

山盛金； 増体形質の終了時体重（605.8kg）、1日当り増体量（0.95kg）および1kg増体当りTDN（6.25kg）が優れ、屠体形質もロース芯面積（44.9cm²）以外の皮下脂肪厚（1.8cm）およびBMS（2.4）は良好であった。肉質等級4以上の割合は88%と高い。量・質兼備の種雄牛である。

寿峰； 増体形質の終了時体重（597.6kg）および1日当り増体量（0.88kg）は高い傾向にあるが、1kg増体当りTDN（6.96kg）、皮下脂肪厚（2.3cm）およびBMS（2.0）は劣る。

第3増清； 寿峰同様、終了時体重（632.9kg）および1日当り増体量（0.90kg）は優れるが、1kg増体当りTDN（6.97kg）、皮下脂肪厚（2.3cm）およびBMS（1.7）は劣る。

哲徳； 終了時体重（541.5kg）、1日当り増体量（0.75kg） 1kg増体当りTDN（7.28kg）、ロース芯面積（45.1cm²）およびBMS（1.9）のいずれの項目も全国平均を下回る。

谷照； ロース芯面積（49.8cm²）、皮下脂肪厚（1.5cm）およびBMS（2.8）に優れる肉質系種雄牛であるが、本牛は検定中に死亡し在庫凍結精液は少ない。

3. 指導上の留意事項

1) 間接検定法

(1) 検定場所 岩手県種山牧野事務所

(2) 検定期間(364日)

糸菊および山盛金； 平成2年6月8日～平成3年6月7日

寿峰および第3増清；平成2年6月22日～平成3年6月21日

哲徳； 平成2年7月13日～平成3年7月12日

谷照； 平成2年11月16日～平成3年11月15日

(3) 給与飼料

濃厚飼料 間接検定飼料(TDN 73.0%, DCP 10.0%) 不断給餌

粗飼料 乾草飽食、濃厚飼料の10%イナワラ

2) 検定屠殺時月齢は生後21～22ヵ月齢で、慣行肥育より10ヵ月程度早い。

4. 関連試験課題名 黒毛和種産肉能力検定(間接法)